

大宮の魅力—多彩な「ひと」—「UDCO PAPER」—ひとを紡ぐ—では、大宮の「ひと」と「スポーツ」を盛り込むことで、地域に広くその魅力を発信していきます。

# UDCO PAPER

#003

ひとを紡ぐ

1976年生まれ、静岡県出身。順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科卒。大宮アルディージャがJリーグに参加した1999シーズンよりクラブスタッフとなる。2003年から約4年間の米国滞在を経て復職。パートナー営業、ホームタウン、練習場・クラブハウス建設など幅広い業務を担当し、2018年12月より現職。埼玉県スポーツ推進審議会委員、さいたま市総合型地域スポーツクラブ推進委員、さいたま市消防団中央分団員として地域に貢献している。



OMIYA  
PEOPLE  
No.003

## 望月 大亮 | 大宮アルディージャ事業本部 フットボール事業担当 担当部長

### 地域とともにあるJリーグクラブ 大宮アルディージャの活動

ビジョンを掲げ、  
理念を守る

「UDCO PAPER——ひとを紡ぐ」#003では、大宮アルディージャと地域の架け橋として活動しながらさらなるスポーツの発展を目指されている望月大亮さんに、大宮アルディージャと地域の関わり、大宮公園への思いを伺いました。

[聞き手: 藤村龍至(UDCO副センター長)]

藤村 まずは生い立ちから、大宮アルディージャとの出会いまでお聞かせください。

望月 父は高校の体育教師でした。私も教師の道も考えましたが、「体育」ではなく「スポーツ」という捉え方をしたくて、スポーツビジネスに興味があったので順天堂大学のスポーツ健康科学部に進み、スポーツマーケティングゼミでスポーツビジネスを学びました。一方で、競技としてはトライアスロンに取り組んでいて、シドニーオリンピックの強化指定選手にも選ばれたのですが、その時に2年間NTTにご支援いただきました。大学卒業と同

時に大宮アルディージャの仕事に就きます。卒業が1998年度で、1999年のJ2発足から大宮アルディージャが参加したため、タイミングに恵まれました。当時はスポーツビジネスという概念がまだ一般的ではなく、野球かサッカーしかプロスポーツビジネスに関わる道はありませんでした。

#### 地域と関わる大宮アルディージャの活動

藤村 昨年11月までホームタウン推進担当部長を勤めておられましたが、その活動について教えていただけますか。

望月 地域に開かれた窓口的な部署なので、まずは行政(市や県など)のスポーツ振興窓口とお付き合いをすることですね。そこを通じて地域との関係を深めています。私は地域の企業営業も担当しており、自治会や商店街の皆さんとも広くお付き合いをしてきました。さ

いたま市はスポーツとまちづくりを重視しているので、商業振興や観光にとどまらず、健康や福祉、文化的活動など、スポーツを通して多岐にわたる取り組みへ拡がってきました。その後は機会にも恵まれ、クラブハウスや練習場の建設を担当することになりました。営業とホームタウンもやりながら建設にも関わることになってトリプルワークで大変でしたが、クラブの未来のために重要な時期だったと今では思います。

藤村 大宮アルディージャの球団としての特徴はどこにあるのでしょうか?

望月 やはりビジョンを掲げ、「スポーツを通じて夢や感動をわかち合えるより良い地域社会に貢献する」という理念を忠実に守ろうとする姿勢は、大宮アルディージャらしさではないでしょうか。何か大きなイベントを打ち立て成果とするのではなく、日々の地域活動から始まって、お祭りなど地域に出て行く活動を愚直に取り組みつづけています。社会貢献活動としては、「クリーン作戦」という街の清掃活動を継続しています。最近では、こうした社会的意義のある活動が子どもたちの社会貢献などにも活用され始めていて、そこも独自性のひとつだと考えています。

#### さいたま市のまちづくりとスポーツビジネス

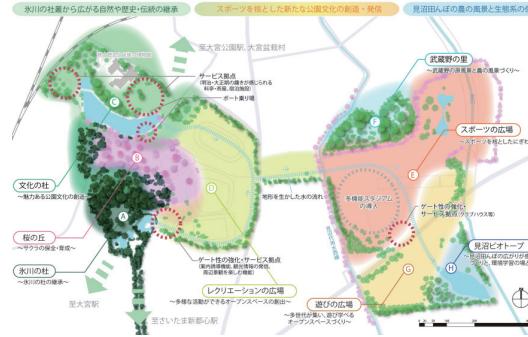
藤村 まちづくりとスポーツビジネスの関わりについて、さいたま市ならではの試みはありますか?



サポーターの熱気に入れるNack5スタジアム大宮  
[提供=大宮アルディージャ]



大宮公園グランドデザイン(案)将来像のイメージ[出典=大宮公園グランドデザイン(県民意見募集用資料)]



**望月** 来年度から「さいたまスポーツコミッショング」が法人化されて組織として動き出します。そこでは、既存の施設をネットワーク化してサービスを提供することで、全体の利用率を上げていくことを目指しています。これは新しいかたちのスポーツシユーレ構想でもありますし、既存の施設を活用したネットワーク型スポーツシユーレです。外来の需要もしっかり捉えていきながら、さいたま市がスポーツ環境の充実した子育てしやすい街になっていくよう、われわれとしても貢献していくと思います。

**藤村** そのなかでサッカークラブが果たす役割として、今後どのような可能性があるとお考えでしょうか。

**望月** 大宮は今、東日本の連携拠点として注目されていて、そのポテンシャルは誰もが感じているところです。サッカーの世界では、仙台さんや新潟さんにとって「最も“近い”アウェイ」と呼ばれるように、立地条件の良さは非常に重要です。鉄道のまち・大宮は交通網の整備によってどんどん便利になっていて、それはよいところですが、目を転じると、街の奥行きが少し狭いのではないかと感じます。そのなかで、大宮公園の役割は非常に重要なものだと思います。大宮の名前の由来は「大きいなる宮居」で氷川様のことです。その大宮公園の中で試合をするプロサッカークラブがあることが、地域にとって大きな意味を持つと考えています。

また外的環境としては、クラブライセンス制度やスタジアム基準が導入された関係で、スタジアムのキャパシティや設備の課題が浮き彫りになってきています。現状でもJ1の基準は満たしていますが、隣の埼玉スタジアム2002(63,700人収容)に比べると非常に小さく、経営的に天井が見えています。現状、入場者数は右肩上がりで来ているので、新しいスタジアムの必要性は喫緊の課題であることは明らかです。

### 向こう100年の 礎となる時期

#### 大宮公園の再編と

#### 「多機能スタジアム」の行方

**藤村** 現在100年後を見据えた大宮公園のグランドデザインの検討が始まっています。今後の大宮公園のあり方について、どのような期待をお持ちですか？

**望月** 向こう100年の礎となる時期ですね。個人的な想いとしては、こうした検討が始まつ

たことをうれしく思います。大宮公園は2400年の歴史を誇る氷川神社の土地であったことに最大限リスペクトしながら、地域と行政が一緒にになって考えていくことが必要です。第二公園には多機能スタジアムが新たに検討されていますが、まだ「多機能スタジアム」という言葉の定義が揺らいでいますね。

ピッチが多機能なのか、建物が多機能なのか。私たちとしてはサッカー専用のスタジアムが欲しいところですが、多機能の中身を具体的に議論するべきでしょう。今はどの役割や機能を公園内に残すのかという議論の段階なので、機能の再配置についてはおそらく次の段階だと思います。

さいたま市全体でみれば、さいたまスーパー・アリーナは、ほぼ稼働率100%です。屋根付きで音楽イベントができることが現代の多機能に応えることになるのであればそれもよいと思います。地域の課題解決ができて、かつ市民の理解が得られる機能が入るべきだと思います。リハビリセンターなのか、託児所なのか、それが何になるかは時代によって変わってくると思います。この地域の向こう100年に必要な機能が備わっていることが大事で、議論のなかで広くご意見をいただきながら決めていくべきだと思います。

**藤村** ところで、海外視察をされたそうですが、印象をお聞かせください。

**望月** リーグができて四半世紀ですが、急加速的にヨーロッパの歴史や文化、欧米のスポーツビジネスの考え方を吸収して、いいところでJリーグが追いついてきた感覚はあり

ます。ただ、法律や都市計画では遅れている側面がある、特にスタジアムやスポーツシユーレについて大きな差を感じました。

**藤村** ドイツのように、都市計画のなかで緑地・学校・交通などの配置と関連づけてスポーツが位置づけられている国に対して、日

本のスポーツは基本的に教育行政の中にあります。今後の日本のスポーツはどちらの方に向かって進んでいくべきだと思われますか？

**望月** 日本では歴史的に学校教育の中に「体育」がある、ということだと思います。私たちは「スポーツ」の中に人間教育があるという立場なので、あるところまでは学校教育でカバーするべきですが、それ以上はスポーツの世界が支えていくべきだと感じています。多様化の時代にスポーツを求める人たちに向けたサービスを準備していくことも必要です。さいたま市にも見沼田んぼというグリーンベルトはあるし、電車交通網というトラムもある。さいたまスーパー・アリーナもあるし、大宮公園も大きな都市公園として魅力があります。機能は街に揃っています。そのなかで、スポーツコミッショングがネットワーク型で既存施設を活用していくことは、やはり正しい道だと思います。

### ネットワーク型で 既存施設を活用

#### UDCOへ期待すること

**藤村** 最後に、UDCOに対して期待することをお聞かせください。

**望月** まちの専門家として、市民目線でのごとを考えたり、パブリックミーティングという手法で未来を考えていくことは重要だと思います。これまでとは違った手法です。街に寄り添いながら多様なニーズに応えられるような動きをしてほしいと思います。のごとを俯瞰しながら、海外の情報なども入れながらの活動に期待しています。私たちとしても、まちづくりや都市計画について、UDCO経由で勉強できているのはありがたいことです。

#### UDCO PAPER #003 ——ひとを紡ぐ

2019年1月18日発行

編集・発行: UDCO [アーバンデザインセンター大宮]

編集協力: 和田隆介

デザイン: 刈谷悠三十角田奈央/neucitora

問合せ先: UDCO [アーバンデザインセンター大宮]

330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町一丁目60番地

大宮ラクーン8F まちラボおおみや内

TEL: 048-782-9679 | FAX: 048-782-9680

©2019 UDCO All Rights Reserved